

～こづる笑顔プラザへ参加しました～

障害者相談支援事業所ハンズ宮城野

令和6年6月12日、小鶴市営住宅集会所において、こづる笑顔プラザが開催され、フィンランド発祥のゲーム「モルック」の対抗戦が行われました。こづる笑顔プラザは、小鶴市営住宅の住民有志で見守りなどを行うボランティア団体「小鶴みまもり隊」の活動のひとつとして、年2回定期的に活動しています。当初は屋外での活動予定でしたが、当日の晴天と気温の高さから活動場所を集会所へ変更。室内の風通しを良くした上、水分補給の時間を適宜取るなど熱中症の予防に努めました。

開会の挨拶のあと、参加者の自己紹介を行い、モルック指導担当者より使用する道具とルール、加点方法について説明を受けました。このゲームではモルックという木の棒を並んだスキttl（数字が書かれた木の棒）に向けて投げますが、加点が50点丁度になるようにスキttlに当てる必要があります。50点を1点でも超えた場合は25点まで減点される難しさがあります。その後、全員でラジオ体操を行い、2ブロックに分かれた後に1チーム3名編成で4チームを作り、チーム対抗戦を行いました。

スキttlは、倒れた場所に立て直すルールのためゲームが進むとスキttl同士の距離が広がり、モルッカーソ（モルックを投げる位置を示す目印）からも遠くなり、参加者はスキttlに当てるのが難しくなって苦勞する様子が見られました。モルックが狙いのスキttlに見事当たった時や、逆に外れた場合にも歓声上がり、集会所内は大いに盛り上がりを見せました。対抗戦は50点丁度を獲得したチームが優勝し、全員で協力して後片付けを行い今回の活動を終了しました。

住民の方々は、モルックを勢い良く速いスピードで投げたり、合計点数を考えながらスキttlを倒してゲームを楽しみ、盛り上がる様子が見られました。また、チーム対抗戦でしたが敵味方なく参加者を互いに応援する姿も心温まるものがありました。今後も地域住民の交流の場となるよう、こづる笑顔プラザの活動に携わっていきたいと思います。

